

経営協議会議事要旨

1. 日時 令和5年3月17日(金) 13:30～15:05
2. 場所 弘前大学創立50周年記念会館2階「岩木ホール」及びオンラインの併用
3. 出席者 福田(学長・議長)
稲庭, 今井, 木村, 櫛引, 九戸, 永澤, 三國谷
若林, 岡本, 郡, 曾我, 石川, 大山, 安川の各委員15名
欠席者 青山, 岡井の各委員2名
陪席者 山内監事, 吉田監事, 佐野理事, 柏倉学長特別補佐, 杉原国際連携本部長, 加藤法人内部監査室長, 飯島人文社会科学部長, 福島教育学部長, 東農学生命科学部長, 齋藤保健学研究科長, 岡崎理工学研究科長, 森地域社会研究科長, 小岩地域共創科学研究科副研究科長, 床次被ばく医療総合研究所長, 本田地域戦略研究所長, 羽瀨附属図書館長, 牛田農学生命科学部教授
事務部陪席 阿部総務部長, 飯田財務部長, 森屋施設環境部長, 古舘研究推進部長(兼)社会連携部長, 村市医学部附属病院事務部長, 長谷川調整役, 金沢総務企画課長, 工藤広報・情報戦略課長, 後藤人事課長, 浅利財務企画課長, 佐藤財務管理課長, 佐々木契約課長, 窪施設環境企画課長, 中野経営企画課長

4. 配付資料

- 資料1 【事前配付】令和5年度 弘前大学予算実施計画(案)
- 資料2 【事前配付】国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について
- 資料3-1 【事前配付】弘前大学学則の一部改正について(概要)
- 資料3-2 【事前配付】弘前大学学則新旧対照表(案)
- 資料4 【事前配付】COI研究推進機構の廃止及び健康未来イノベーション研究機構の組織改正に伴う学内規則等の整備について
- 資料5 【事前配付】弘前大学の最近における新型コロナウイルスへの対応状況
- 資料6 【事前配付】今後の課題等について
- 資料7 【当日配付】令和5年4月1日弘前大学役員等一覧

5. 議事

議長から、令和5年1月24日開催の議事要旨(案)の確認及び2月21日の紙上会議の結果報告が行われ、原案のとおり承認された。

○審議事項

審議1 令和5年度 弘前大学予算実施計画(案)について

岡本総務担当理事及び大山医学部附属病院長から、資料1に基づき、令和5年度弘前大学予算実施計画(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

審議2 国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について

岡本総務担当理事から、資料2に基づき、国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

審議 3 弘前大学学則の一部改正について

若林企画担当理事から、資料 3—1 及び資料 3—2 に基づき、弘前大学学則の一部改正について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

審議 4 COI 研究推進機構の廃止及び健康未来イノベーション研究機構の組織改正に伴う学内規則等の整備について

曾我研究担当理事から、資料 4 に基づき、COI 研究推進機構の廃止及び健康未来イノベーション研究機構の組織改正に伴う学内規則等の整備について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

○報告事項

報告 1 弘前大学における新型コロナウイルスへの対応について

岡本総務担当理事から、資料 5 に基づき、弘前大学の最近における新型コロナウイルスへの対応状況について報告があった。

報告 2 今後の課題等について

学長、各理事及び大山医学部附属病院長から、資料 6 に基づき、今後の課題等について説明があった。

報告 3 その他（令和 5 年度の体制について）

学長から、資料 7 に基づき、令和 5 年度の体制について説明があり、その後退任する委員の紹介及び挨拶があった。

○質疑応答（□：学外委員 ○：学内委員）

1 令和 5 年度 弘前大学予算実施計画（案）について

- 経営協議会では、数値の単なる紹介にとどまらず、大学の経営上の課題とそれへの対応について議論するようにしてほしい。また、内なる説明にとどまらず、学外の立場にある学外委員にも基本からわかるような説明をしていただきたい。
- 次回以降の説明の仕方については、改善させていただく。

2 弘前大学学則の一部改正について

- どういう状況で医学部医学科の入学定員の暫定措置が認められるのか。
- 本県の医師不足の状況を反映して本学から申請し認められる。

3 今後の課題等について

- 科学研究費補助金について、大型なものにチャレンジした場合への支援についてはその後も行われているのか。
- 支援は行っており、科研費獲得支援事業がそれにあたる。今後も進めていく。
- 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の採択はいつか。また、採択の難易度はどうか。
- 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」にはハード事業とソフト事業の 2 つの事業があり、ハード事業（施設整備）は 4 月中旬から下旬頃に結果が分かる予定である。ソフト事業はスケジュールが発表されていないので詳しいことは未定であるが、5～6 月に申請が始まり、結果は秋頃ではないかと思われる。採択の

難易度については、簡単ではないと認識している。

- 札幌サテライト、その他のサテライトの機能に違いはあるか。
- 東京事務所、八戸サテライト、青森サテライトがあり、それぞれ機能が違う。札幌サテライトは、卒業生とのネットワーク構築を視野に入れながら、入試広報と就職支援に力を入れたい。
- 卒業生を大切にすることは非常に重要であり、札幌サテライトのような体制作りが必要だと思う。
- 親の世代が修学旅行で弘前を訪れたことによって、子供を安心して弘前へ送り出せるということに繋がっていることから、札幌サテライトを設置することは必要だと思う。

- 資料における言葉の使い方について、大学内ではあたりまえとされている言葉の使い方かもしれないが、世間一般に誤解を与えないような表現にするようご留意願いたい。また、表記の統一も必要ではないかと思う。

- 次回から分かりやすい説明を心がけたい。また、表記の統一を図るようにしたい。

- 広報の強化について、「学ぶ街は、暮らす街でもある。」というキャッチコピーは素晴らしい。大学と市と商工会議所が一体となって、学都弘前を大々的にアピールするような戦略を行ってほしい。

- COI-NEXT に期待しているので、ぜひ頑張ってもらいたい。

- 地域にとって重要なのは人材育成であり、それは大学の本義である。その上に多様な研究があり、社会貢献をしていく。今後もご支援、ご指導をお願いしたい。

- 教員組織を見直しながら、若手教員を積極的に採用し、研究を推進しながら地域への社会実装化等を進め、雇用創出にもつなげていきたい。

- 若手教員の採用は順調に進んでいる。女性教員の採用も力を注いでいきたい。

以上